

佐賀方言における韻律構造と疑問文の容認性について

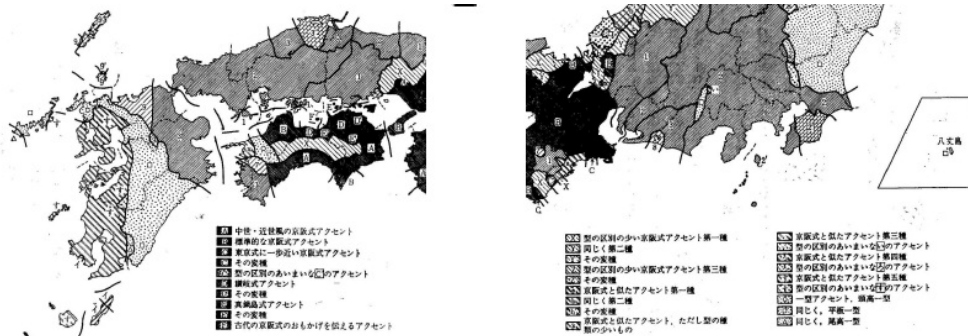
「日本語疑問文の通時的・対照言語学的研究」研究発表会

日高俊夫

(九州国際大学 / 神戸松蔭言語科学研究所)

2015年12月20日

1 佐賀県佐賀市方言の一般的音韻特性



(金田一, 1977, 176-177)

佐賀市：型の区別のあいまいなアクセント

無アクセント地帯と考えられる（前川(1992)の熊本方言と同様）

■ アクセントによる語彙の弁別機能がない

- (1) 端一橋一箸，雨一飴，型一肩，一語一苺，歯医者一配車

■ 1型アクセントの福岡方言とも異なり，アクセント核は任意

- (2) 福岡方言（ \downarrow は下がり目を表す）

- a. タベ \downarrow タ
- b. タベ \downarrow タラ
- c. アカカッ \downarrow タ（久保, 2010）

- (3) 福岡方言

- a. ムラ \downarrow サキ
- b. モモイロ（久保, 2010）

- (4) 佐賀方言

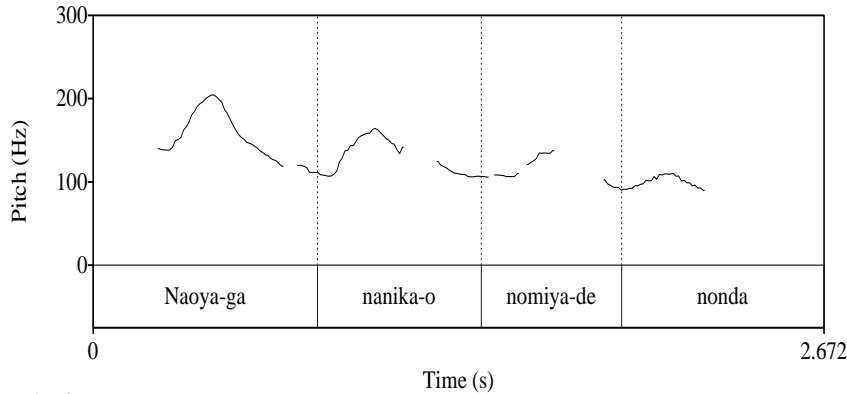
- a. タベタ
- b. タブツギ / タブツ \downarrow ギ
- c. アカカッタ / アカ \downarrow カッタ / アカカッ \downarrow タ

- (5) 佐賀方言

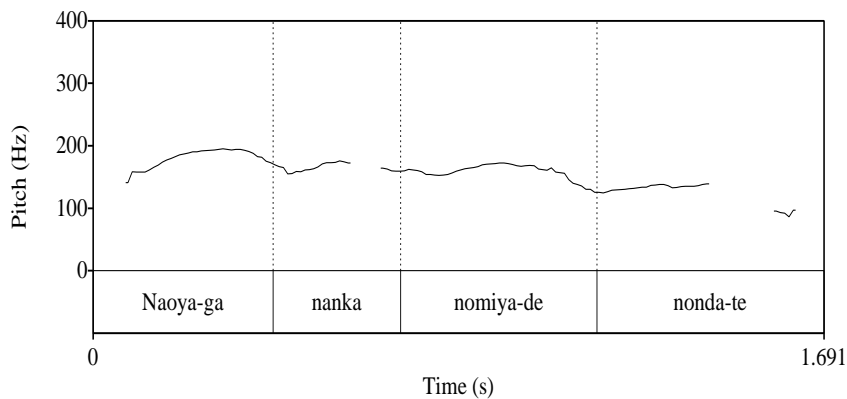
- a. ムラサキ
- b. モモイロ

■ 文においても全体的に平坦なイントネーション

(6) 東京方言



(7) 佐賀方言



2 佐賀方言における基本的韻律構造

松井 (2011) より

(8) **Pierrehumbert and Beckman (1988)** の階層的な韻律構造のモデル :

ν (発話) — lP (中間句 : **intermediate phrase, major phrase**) — αP (アクセント句 : **accentual phrase, minor phrase**) — PrWd (韻律語) — F (foot) — σ (音節) — μ (モーラ) — s (segment) — π (音韻素性)

- a. lP : ある種の統語構造を反映し、downstep が再帰的に起こるレベル (lP 境界でリセットされる)
- b. αP : 語彙的に指定されているアクセント核が基本メロディによって実現されるレベル

佐賀方言の基本的音調パターン

- (9) a. 発話 ν になるべく 1 つの中間句 lP にまとまることを好む (東京方言 : ν が複数の lP から成る場合が多い)。
- b. アクセント句 αP は文節以上の広さを持つが、その範囲は決まっていない (東京方言 : αP は基本的に語彙的に指定されるもので、文節レベルであることが多い)。
- c. 1 つの αP は必ず H^- を持つが、東京方言の無アクセント語と異なり、 H^- の出現する位置は決まっていない。

(松井, 2011, 67)

佐賀方言における統語構造と韻律構造の対応

- (10) a. (佐賀方言は発話 (ν) が1つの中間句 (ιP) にまとまることを好むので) 統語構造と密接な関係を持つのはアクセント句である (αP) (東京方言では中間句 (ιP) が統語構造と密接な関係を持つ)。
 b. したがって、佐賀方言におけるアクセント句は、東京方言よりも広い範囲に及ぶことが多い。

3 佐賀方言におけるかきませの問題

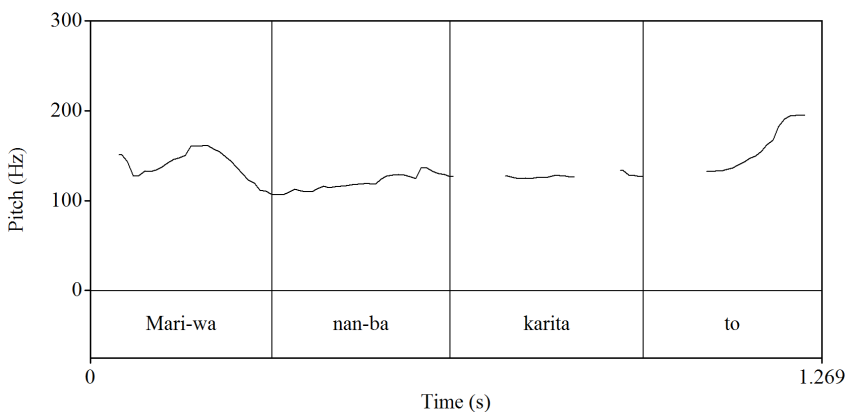
- (11) Saito (1989): semantically vacuous movement
 どの本を $_i$ ナオヤは [マリが t_i 図書館から借り出したか] 知りたがっている。

3.1 佐賀方言では長距離かき混ぜが難しい (フォーカスもしくはトピックなら OK)

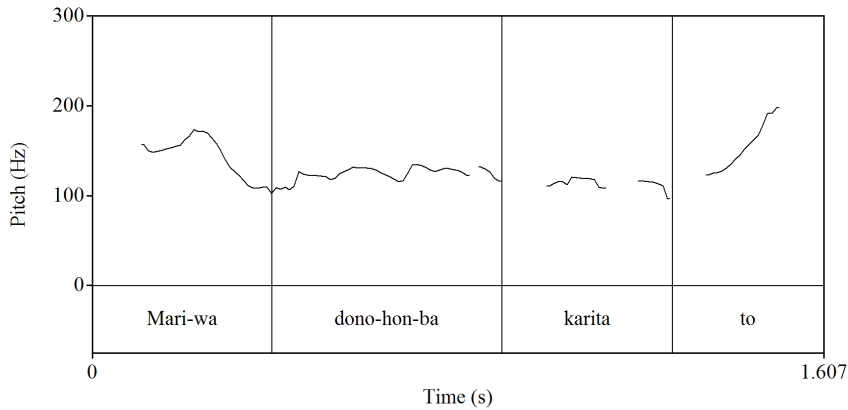
- (12) a. 田中は山田がジャガイモを買ったと思っているの?
 b. 田中はジャガイモを $_i$ 山田が t_i 買ったと思っているの?
 c. ジャガイモを $_i$ 田中は山田が t_i 買ったと思っているの?
 (13) a. 田中は ジャガイモば $_i$ 山田が t_i 買うたて思うとっと?
 b. ?田中はジャガイモば $_i$ 山田が t_i 買うたて思うとっと?
 (14) a. ジャガイモば $_i$ 田中は山田が t_i 買うたて思うとっと?
 b. ?*ジャガイモば $_i$ 田中は山田が t_i 買うたて思うとっと?

3.2 Wh の関わるかきませとアクセント句

- (15) マリは何ば借りたと? [v [ιP マリは] [αP なんばかりたと]]



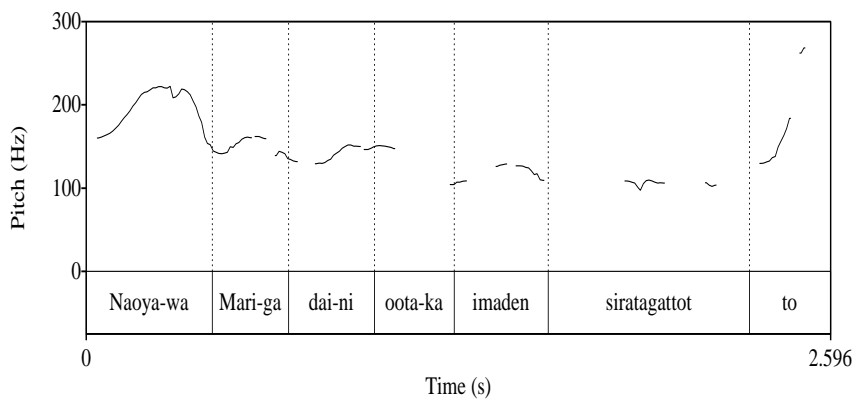
- (16) マリはどの本ば借りたと? [v [ιP [αP マリは] [αP どのほんば] [αP かりたと]]



- (17) アクセント句 (αP) を成さない：なん (何)、だい (誰)、どい (どれ)、どこ、どけ (どこへ、どこに)
 アクセント句 (αP) を成す：どの本、何の本、どこの人

アクセント句を成す場合は長距離かきませ可？ (**D-Linked** ではなく)

- (18) a. ナオヤはマリが何ば借りたて思うととと？
 b. ナオヤはマリがどの本ば借りたて思うととと？
 c. ナオヤはマリが何の本ば借りたて思うととと？
 d. ナオヤはマリが何についての本ば借りたて思うととと？
- (19) a. ?*何ば_i ナオヤはマリが_{t_i} 借りたて思うととと？
 b. どの本ば_i ナオヤはマリが_{t_i} 借りたて思うととと？
 c. 何の本ば_i ナオヤはマリが_{t_i} 借りたて思うととと？
 d. 何についての本ば_i ナオヤはマリが_{t_i} 借りたて思うととと？
- (20) a. ナオヤはマリがだいに会うた {か/こっちやい} 今でん知りたがとととと？
 b. [_v [_{LP} [_{αP} ナオヤは] [_α マリが] [_{αP} だいに おおた {か/こっちやい}] [_{αP} いまでん] [_{αP} しりたがとととと]]]

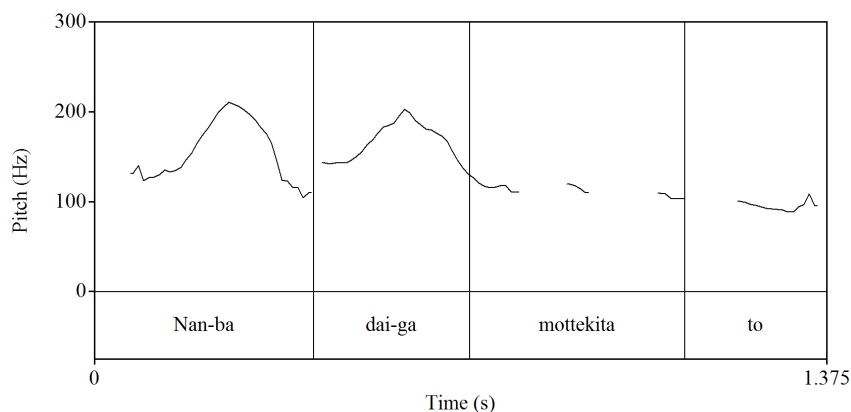


- c. だいにナオヤはマリが会うた {か/?*こっちやい} 今でん知りたがとととと？
- (21) a. ?どの本ばナオヤは [マリが_{t_i} 借りた {か/こっちやい}] 知りたがととと (て)。
 b. ナオヤは [マリがどの本ば_i 借りた {か/こっちやい}]_j 知りたがととと (て)。

- c. [マ리가どの本ば t_i 借りた { か/こっちやい }] $_j$ ナオヤは ____ $_j$ 知りたがとっ (て)。
 d. どの本ば $_i$ [マ리가 t_i 借りた { か/こっちやい }] $_j$ ナオヤは ____ $_j$ 知りたがとっ (て)
- (22) 何ば $_i$ ナオヤはマ리가 t_i 買った { ??か/*こっちやい } 知りたがとっ (て)。
 (23) a. ?*だいに $_i$ ナオヤはマ리가 t_i 会ったこっちやい今でん知りたがとっ (て) ?
 b. ?どの人に $_i$ ナオヤはマ리가 t_i 会ったこっちやい今でん知りたがとっ (て) ?

4 優位性条件?

- (24) 東京
- a. 誰が何を持ってきたの? (ペアリスト)
 b. 何を誰が持ってきたの? (ペアリスト)
- (25) 佐賀
- a. 誰が何ば持ってきたと? (ペアリスト)
 b. ?*何ば誰が持ってきたと? (ペアリスト不可。echo Q や問い詰めならペアリスト OK だが韻律違う)
- (26) (25b) のペアリスト解釈可能な韻律



- (27) a. どの人がどの酒ば持ってきたと?
 b. どの酒ばどの人が持ってきたと?
- (28) a. 誰がどの酒ば持ってきたと?
 b. どの酒ば誰が持ってきたと?
- (29) a. どの人が何ば持ってきたと?
 b. ?*何ばどの人が持ってきたと?
- (30) かきませ後の構造: αP が高い位置にあればよい。
- a. *Not $\alpha P > \text{Not } \alpha P$
 b. $\alpha P > \alpha P$
 c. ? $\alpha P > \text{Not } \alpha P$
 d. ?*Not $\alpha P > \alpha P$

5 介入効果

表層で Wh 句を C コマンドすると文の容認性が低下する表現がある（否定極性表現 (NPI)、選言要素、焦点化マーカ、ある種の量化表現等）（wh-句を文頭に移動させると容認性が改善する）。

(31) Intervention Effects: *[Q_i [...[intervener [... wh-phrase_i...]]] (Beck, 2006)

- (32) a. ?*誰も何を読まなかったの？ cf. 何を誰も読まなかったの？
 b. ??誰もが何を読んだの？ cf. 何を誰もが読んだの？
 c. ??誰かが何を読んだの？ cf. 何を誰かが読んだの？
 d. ?*ジョンしか何を読まなかったの？ cf. 何をジョンしか読まなかったの？
 e. ??ジョンかビルが何を読んだの？ cf. 何をジョンかビルが読んだの？ (Tomioka, 2007)

- (33) a. だいでん何ば読まんやった {と/こ}？
 b. だいでん何ば読んだ {と/こ}？
 c. だい {じゃい / こっちゃい}*(が) 何ば読んだ {と/こ}？
 d. ジョンしか何ば読まんやったと？
 e. ジョン {じゃい / こっちゃい} ビルが何ば読んだ {と/こ}？

- (34) a. *ジョンしか何を読まなかったの？
 b. *ジョンしかどの本を読まなかったの？
 c. *ジョンしか何についての本を読まなかったの？

Tomioka (2007) : Nagahara (1994) の韻律構造に関する次の制約をベースに説明。

- (35) a. FOCUS-LEFT-EDGE: Left edge of focus = left intermediate phrase edge
 b. FOCUS-TO-END: No intervening intermediate phrase boundary between focused material and the end of the sentence.

この制約により、統語構造上の焦点要素が韻律構造上の中間句の始まりに対応し、それ以前は別の中間句を形成し、焦点以降文末までの韻律が低く抑えられることになる。ただし、佐賀方言の場合、FOCUS-LEFT-EDGE が中間句ではなくアクセント句を対象とするということになるかもしれない。

Tomioka2007 による介入効果のメカニズムについての説明

- 介入効果を示すのは Anti-Topic Items (ATIs) である。
- wh-疑問文では、wh 句が焦点になるので、結果、ATI が ground 部分に含まれなければならないはずだが、語彙的性質上、ATI は ground には適していないため、情報構造とその統語構造の間に齟齬が起き、介入効果が観察される。
- 適切な韻律構造に違反する。容認性の低い文においては、ATI がその認可要素と同じ中間句に入らなくなってしまう。
- 一方、wh-句を文頭にもってくると、焦点が文頭に移るので、その結果、それ以降が ground となって ATI もそこに入れるため容認性が向上する。韻律構造においても焦点以降が抑制され、全体が1つの中間句となる。

- (36) a. *ジョンしか何を読まなかったの？ [_{LP} ジョンしか] [_{LP} なにを] [_{αP} よまなかったの]]
 b. 何をジョンしか読まなかったの？ [_{LP} なにを] [_{αP} ジョンしか] [_{αP} よまなかったの]]

- (37) a. ジョンしか何ば読まんやったと? [_{LP} [_{αP} ジョンしか] [_{αP} なんばよまんやったと]]
 b. 何ばジョンしか読まんやったと? [_{LP} [_{αP} なんば] [_{αP} ジョンしか] [_{αP} よまんやったと]]
- (38) a. ?ジョンしかどの本ば読まんやったと? [_{LP} [_{αP} ジョンしか] [_{αP} どのほんば] [_{αP} よまんやったと]]
 b. ?どの本ばジョンしか読まんやったと? [_{LP} [_{αP} どのほんば] [_{αP} ジョンしか] [_{αP} よまんやったと]]

6 sluicing

佐賀方言では、アクセント句であれば sluicing がある程度容認できそう

- (39) a. 東京: 健がその店で何か買ったらしいが、僕は何をか(を)知らない。
 b. 佐賀: ?*健がその店で何じゃい買うたらしかバツテン、おいは何ばこっちゃい(ば)知らん(もんね)。
- (40) a. 東京: 健がその店でどれかを買ったらしいが、僕はどれをか(を)知らない。
 b. 佐賀: ?*健がその店でどいじゃい買うたらしかばってん、おいはどいばこっちゃい(ば)知らん(もんね)。
- (41) a. 東京: 健がその店で中古車を買ったらしいが、僕はどの中古車をか(を)知らない。
 b. 佐賀: ?健がその店で中古車ば買うたらしかばってん、おいはどの中古車こっちゃい(ば)知らん(もんね)。
- (42) a. 東京: 健がその店で刺身を買ったらしいが、僕は何の刺身をか(を)知らない。
 b. 佐賀: ?健がその店で刺身ば買うたらしかばってん、おいは何の刺身ばこっちゃい(ば)知らん(もんね)。

佐賀方言の sluicing は island sensitive?

- (43) a. 東京: 健はどこかでそのカップを買ったらしいが、僕はどこでか(は)知らない。
 b. 佐賀: ??健はどこじゃいでそのカップば買うたて言うたばってん、おいはどこでか覚えとらん。
 c. 佐賀: ?健はどこじゃいでそのカップば買うたて言うたばってん、おいはどこでこっちゃい覚えとらん。
- (44) a. 東京: 警察は、[ロサンジェルスである有名人に麻薬を売った男]を逮捕したらしいが、僕は誰にか知らない。(Fukaya, 2003)
 b. 佐賀: *警察は、[ロサンジェルスである有名人に麻薬ば売った男]ば逮捕したらしかばってん、おいは誰にこっちゃい知らん。
- (45) a. 東京: 警察は、[ロサンジェルスで日本の有名人に麻薬を売った男]を逮捕したらしいが、僕は誰にか知らない。(Fukaya, 2003)
 b. 佐賀: *警察は、[ロサンジェルスで日本の有名人に麻薬ば売った男]ば逮捕したらしかばってん、おいはどの有名人にこっちゃい知らん。
- (46) a. 東京: 警察は、[何かを盗んだ男]を逮捕したらしいが、僕は何をか知らない。
 b. 佐賀: *警察は、[何じゃいば盗んだ男]ば逮捕したらしかばってん、おいは何ばこっちゃい知らん。
- (47) a. 東京: 警察は、[車を盗んだ男]を逮捕したらしいが、僕は何の車をか(を)知らない。
 b. 佐賀: ?警察は、[車ば盗んだ男]ば逮捕したらしかばってん、おいは何の車ばこっちゃい知らん。

7 Wh島の制約

佐賀方言の特性

- 「Wh句 + こっちゃんどがんこっちゃん」(「Wh...かどうか」に相当)は不可、移動も不可。
→ Whが広いスコープを取れず、wh島の制約に従う。
- 「こっちゃん」(ほぼ「か」に相当)のみであっても非アクセント Wh句の移動は難しく、YesNoの解釈のみ。
- 「こっちゃん」のみの場合、アクセント Wh句は移動が可能だが、YesNo解釈のみ。

7.1 格助詞なしの「か」

- (48) a. ナオヤは [マリが誰に会ったか] 今でも知りたがっているの? (YesNo / Wh)
b. 誰に ナオヤは [マリが __ 会ったか] 今でも知りたがっているの? (Wh 優勢)
- (49) 佐賀: Not α P
a. ナオヤは [マリがだいに会ったこっちゃん] 今でん知りたがとと? (YesNoのみ)
b. *だいにナオヤは [マリが __ 会ったこっちゃん] 今でん知りたがとと? (YesNoのみ)
- (50) a. ナオヤは [マリがどの人に会ったか] 今でも知りたがっているの? (YesNo / Wh)
b. どの人にナオヤは [マリが __ 会ったか] 今でも知りたがっているの? (Wh 優勢)
- (51) 佐賀: α P
a. ナオヤは [マリがどのひたんに会った こっちゃん] 今でん知りたがとと? (YesNoのみ)
b. どのひたんに ナオヤは [マリが __ 会ったこっちゃん] 今でん知りたがとと? (YesNo ?*Wh)

7.2 格助詞なしの「かどうか」

- (52) a. ナオヤは [マリが誰に会ったかどうか] 今でも知りたがっているの? (YesNo Wh)
b. 誰に ナオヤは [マリが __ 会ったかどうか] 今でも知りたがっているの? (Whのみ)
- (53) 佐賀: Not α P
a. *ナオヤは [マリがだいに会ったこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとと?
(cf. ナオヤは [マリがケンに会ったこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとと?)
b. *だいにナオヤは [マリが __ 会ったこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとと?
- (54) a. ナオヤは [マリがどの人に会ったかどうか] 今でも知りたがっているの? (YesNo Wh)
b. どの人にナオヤは [マリが __ 会ったかどうか] 今でも知りたがっているの? (Whのみ)
- (55) 佐賀: α P
a. *ナオヤは [マリがどのひたんに会ったこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとと?
b. *どのひたんにナオヤは [マリが __ 会ったこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとと?

7.3 格助詞ありの「か」

- (56) a. ナオヤは [マリが誰に会ったかを] 今でも知りたがっているの? (YesNo 優勢)
b. 誰に ナオヤは [マリが __ 会ったかを] 今でも知りたがっているの? (Wh 優勢)
- (57) 佐賀: Not α P
a. ナオヤは [マリがだいに会うたこっちゃんば] 今でん知りたがとっと? (YesNo のみ)
b. *だいにナオヤは [マリが __ 会うたこっちゃんば] 今でん知りたがとっと?
- (58) a. ナオヤは [マリがどの人に会ったか] 今でも知りたがっているの? (YesNo / Wh)
b. どの人にナオヤは [マリが __ 会ったか] 今でも知りたがっているの? (Wh 優勢)
- (59) 佐賀: α P
a. ナオヤは [マリがどのひたんに会うたこっちゃんば] 今でん知りたがとっと? (YesNo のみ)
b. ?どのひたんに ナオヤは [マリが __ 会うたこっちゃんば] 今でん知りたがとっと? (YesNo のみ)

7.4 格助詞ありの「かどうか」

- (60) a. ?ナオヤは [マリが誰に会ったかどうかを] 今でも知りたがっているの? (YesNo Wh)
b. ?*誰に ナオヤは [マリが __ 会ったかどうかを] 今でも知りたがっているの? (Wh のみ)
- (61) 佐賀: Not α P
a. *ナオヤは [マリがだいに会うたこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとっと?
b. *だいにナオヤは [マリが __ 会うたこっちゃんどがんこっちゃん] 今でん知りたがとっと?
- (62) a. ナオヤは [マリがどの人に会ったかどうかを] 今でも知りたがっているの? (YesNo Wh)
b. どの人にナオヤは [マリが __ 会ったかどうかを] 今でも知りたがっているの? (Wh のみ)
- (63) 佐賀: α P
a. *ナオヤは [マリがどのひたんに会うたこっちゃんどがんこっちゃんば] 今でん知りたがとっと?
b. *どのひたんにナオヤは [マリが __ 会うたこっちゃんどがんこっちゃんば] 今でん知りたがとっと?

7.5 まとめ

	こっちやい				こっちやいどがんこっちやい			
	NotαP		αP		NotαP		αP	
	NoScr.	Scr.	NoScr.	Scr.	NoScr.	Scr.	NoScr.	Scr.
格助詞なし	YN	?*	YN	YN	*	*	*	*
格助詞あり	YN	*	YN	?	*	*	*	*

表 1: 佐賀方言における長距離かきませの容認性

	か		かどうか	
	αP		αP	
	NoScr.	Scr.	NoScr.	Scr.
格助詞なし	YN/WH	YN < WH	YN/WH	WH
格助詞あり	YN > WH	YN < WH	?(YN/WH)	?*

表 2: 東京方言における長距離かきませ (?) の容認性

- 佐賀方言: 「か」 + αP + 「格助詞なし」 → 長距離かきませ可能だが、かきませした場合も YN のみ。
- 佐賀方言: 「か」 + αP + 「格助詞あり」 → 長距離かきませ不可能。
- 佐賀方言: 「かどうか」 → 一律に長距離かきませ不可能 (そもそも Wh 句と共起できない)。
- 東京方言: 「か」 + 「格助詞なし」 → Wh 句をかきませすると WH 解釈が優勢。
- 東京方言: 「か」 + 「格助詞あり」 → かきませなしだと YN 解釈が優勢。
- 東京方言: 「かどうか」 + 「格助詞なし」 → かきませ可能 (その場合 Wh 解釈のみ) だが、格助詞が入るとかきませは難しい。

- 佐賀方言の場合は純粋なかきませ (意味の変更を伴わない) なのでアクセント句であるかどうか重要。
- 「かどうか」に相当する「こっちやいどがんこっちやい」は「かどうか」と異なり、アクセント句であるか否かにかかわらず Wh 句と共起できない (東京方言は「か」と「かどうか」の区別が必ずしも明確ではない?)。
- 佐賀方言の「こっちやいどがんこっちやい」は Wh 解釈を許さず、島の制約に従う。東京方言では、「かどうか」で格助詞が入ると、Wh 解釈は可能だが、Wh 句を明示的に移動させることはできない。(cf. 長距離依存に対する埋め込み節種の効果は日本語では相対的に弱く、付加詞節、複合名詞節、間接疑問文が島としてほとんど機能していないと言える (時本, 2014)。)

8 まとめ

参考文献

Beck, S. (2006). Intervention effects follow from focus interpretation. *Natural Language Semantics*, **14** (1), 1–56.

- Fukaya, T. (2003). Island (In)sensitivity in Japanese Sluicing and Stripping and Some Implications. In Garding, G. & Tsujimura, M. (Eds.), *WCCFL*, Vol. 22, pp. 179–192. MA: Cascadilla Press.
- Nagahara, H. (1994). *Phonological phrasing in Japanese*. Ph.D. thesis, University of California Los Angeles.
- Pierrehumbert, J. & Beckman, M. (1988). *Japanese Tone Structure*. The MIT Press.
- Saito, M. (1989). Scrambling as semantically vacuous A'-movement. *Alternative conceptions of phrase structure*, **182**.
- Tomioka, S. (2007). Pragmatics of LF intervention effects: Japanese and Korean Wh-interrogatives. *Journal of Pragmatics*, **39-9**, pp. 1570–1590.
- 金田一春彦 (1977). 「アクセントの分布と変遷」. 『日本語 11 方言』, pp. 12–180. 岩波書店.
- 久保智之 (2010). 「福岡方言における動詞・形容詞と疑問文のアクセントに関する覚え書き」. 『文学研究』, **107**, 157–183.
- 時本真吾 (2014). 「日英語における島の効果の実験的記述と比較」. 『日本言語学会第 148 回大会予稿集』, pp. 414–419. 日本言語学会.
- 前川喜久雄 (1992). 「熊本無アクセント方言のイントネーション」. 『月刊言語』, **21** (9), 66–74.
- 松井理直 (2011). 「音韻部門における統語的焦点素性の韻律解釈」. *TALKS*, **14**, 45–80.